

第 52 号 令和 7 年 3 月 27 日 (木)  
教育情報紙

発行：島根県教育委員会  
(教育指導課)  
TEL：0852-22-6862  
Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

令和 6 年度島根県学力調査結果の活用について  
～今年度の学びの確かめから来年度の学力育成に向けて～

島根県教育委員会では、令和 6 年 12 月に「島根県学力調査」を以下の目的で実施しました。

- 学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行う。
- 令和 6 年度全国学力・学習状況調査以降の学力の状況を把握し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に活用する。

県教育委員会では、この調査結果の概要をまとめた「令和 6 年度島根県学力調査結果概要【学校版】」をしまねの教育情報 Web EIOS に掲載しています。各教科の指導のポイントやしまねの学力育成推進プランの 3 つの柱（授業の質の充実・家庭学習の充実・地域に関わる学習の充実）に関わる取組をまとめているので、来年度の学力育成の取組にご活用いただきますようお願いいたします。

1 学力調査の結果概要

(1) 国語

- ① 日常的に使用頻度の高い漢字の読み書きについては、概ねできている
- ② 複数の情報から読み取った内容をもとに、指定された条件にしたがって自分の考えを書くことに課題

(2) 算数・数学

- ① 基礎的な分数の計算、平面図形の基礎的な内容（小学校）、一次方程式の比例式、基本的な文字式、連立方程式（中学校）は概ねできている
- ② 数量の関係を読み解くことや立体図形の概念の理解に課題（小学校）
- ③ 数や式の意味についての理解や式・表・グラフを関連付けて考えることに課題（中学校）

(3) 英語

- ① 適切な語順に並べ替えて文を構成する力は全国値並み
- ② 簡単な語（句）や文で書かれたものや図表を参考にして必要なことを読み取る力に課題
- ③ 具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題

2 生活・学習に関する意識調査の結果概要

- (1) 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると回答する児童生徒の割合は同一集団を比較すると年々高くなっている
- (2) 平日に 1 時間以上家庭学習を行っているとした児童生徒の割合が減少している（平日 1 時間以上学校以外で勉強している中学 2 年生は 39.6%）
- (3) 総合的な学習が児童生徒の探究の過程を踏まえた学びにつながっている
- (4) 平日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が増加している（2 時間以上使用している中学 2 年生が 51.7%）

## 授業をさらに充実させるために — 各種資料のご案内 —

県教育委員会では、令和6年度全国学力・学習状況調査および県学力調査の結果を踏まえ、授業改善や児童生徒の学びをよりよくするための資料を作成・提供しています。各学校におかれましては、日々の授業づくりや校内研修等にぜひご活用ください。

- (1) 令和6年度全国学力・学習状況調査及び県学力調査の結果分析を踏まえた「**授業改善動画**」をしまねの教育情報 Web EIOS に掲載

※国語、算数・数学、英語の授業づくりのポイントの説明  
(各校種1教科約10～15分)



動画アクセスにはパスワードが必要です。

- (2) 全国学力・学習状況調査、県学力調査結果から見えた授業づくりのポイントをまとめた「**授業チェックリスト**」をしまねの教育情報 Web EIOS に掲載



- (3) 各教科等の指導のポイントを小中高別に記載した「**各教科等の指導の重点**」をしまねの教育情報 Web EIOS に掲載



- (4) 「**しまねの学力育成プロジェクト～3年間の取組事例と成果～**」をしまねの教育情報 Web EIOS に掲載 (次のページに二次元コードを掲載しています。)

「しまねの学力育成プロジェクト」は、「しまねの学力育成推進プラン」に示した「授業の質の充実」「家庭学習の充実」「地域に関わる学習の充実」の3つの柱をもとに、子どもたちの将来の選択肢を広げることを目指して実施しています。特に、理系分野への意欲や関心を高める取組などを通じて、市町村教育委員会が小・中学校等で学力の育成を推進する際に、その取組に必要な経費の一部を県が補助しています。あわせて、取組の成果を全県で広く共有し、県内の児童生徒の学力育成を図っています。



研究校

松江市立乃木小学校 松江市立湖南中学校  
安来市立荒島小学校 安来市立第三中学校  
出雲市立大津小学校 出雲市立第一中学校  
雲南市立大東小学校 雲南市立大東中学校  
大田市立大田小学校 大田市立第一中学校

令和4年度から3年間にわたり実施してきた「しまねの学力育成プロジェクト」では、県内5市の取組を通じて、学力育成に効果的な手立てが見えてきました。これらの成果は、「第2期 しまねの学力育成推進プラン」島根県教育委員会（令和7年度～11年度）の策定や、令和7年度以降の施策に反映し、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進につなげていきます。

なお、次のページでは、これまでの取組や成果を通して得られた、学力育成に有効な手立てのポイントを紹介しています。各市町村や学校における今後の取組の参考として、ぜひご活用ください。

「しまねの学力育成プロジェクト」の取組から見えた

## 学力育成に有効な手立てのポイント

- (1) 課題の共有と共通指針に基づく取組の推進
- (2) 学習指導要領の趣旨の理解と実践
- (3) 研修意欲の向上と学ぶ場の設定
- (4) 組織的な横展開
- (5) 小中の連携強化
- (6) 児童生徒の声に基づく取組
- (7) 基礎学力の育成・学習習慣の確立
- (8) 本物に触れる機会の提供
- (9) 学級・学習集団づくり
- (10) 実践・指導のデータベース化

「第2期 しまねの学力育成推進プラン」の策定にあたっては、ワーキングチームが5市における取組とその成果を踏まえて検討を行いました。

「しまねの学力育成プロジェクト」5市の取組



- ・ [3年間の各市の取組事例と成果（まとめ）](#)
- ・ [2年目の取組事例紹介～スタートページ～](#)
- ・ [リーフレット（1年目の取組事例紹介）](#)

## 「第2期 しまねの学力育成推進プラン」

「第2期 しまねの学力育成推進プラン」島根県教育委員会（令和7年度～11年度）を策定し、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を推進します。児童生徒が「できた・よかった・やってみよう」と実感できる授業づくりを目指し、県と市町村が共通理解のもとで実施します。（令和7年4月にお知らせします。）

各市町村や各学校の課題等に照らし合わせ、それぞれが今後の学力育成の取組の具体を設定して実践される際に、「第2期 しまねの学力育成推進プラン」や上記の成果も参考にさせていただきますようお願いいたします。